Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第75号

ななえ古写真物語

VOL. 75

ななえの氷室

「まるきん」の半纏を背負って
大正初期
大沼駅付近

七飯町における氷切りの歴史について、ピチャリ第14号で、少なくとも明治10年代頃まで遡るという話を、大沼駅で氷を貨物列車に積み込んでいる写真とともに紹介したことをご記憶でしょうか？

年代の根拠としては、現在の本町周辺に設置された七重官園の氷室を示す図面の存在をあげましたが、残念ながらその後の調査の成果もなく、設計図面や近景を撮影した写真は、まだ見つかっておりません。

しかし、官園の建物ではないですが、七飯町における氷切りの本拠地ともいうべく、大沼にあった氷室の写真が見つかりましたので、今回はそれを紹介したいと思います。

それが上の写真です。明治30年に大沼に入植した宇喜多秀夫たちが農場を開設し、冬場の仕事として氷切りをしていたようで、彼らが建設した氷室が、右側の建物になります。壁面上方には、宇喜多を示す〇の中に金の文字を記した「まるきん」の屋号が大きく描かれ、建物の入り口前には、氷が積み上げられています。その左側には同じく「まるきん」の半纏を着た人たちが、馬橇から氷を積み下ろしている姿が写っています。

この写真は、大正５年に発行された『北海道大沼　宇喜多農場開始二十年記念写真集』に掲載されたものであることから、大正初期の様子だろうと想像できます。

また、昭和９年に大沼尋常高等小学校で発行した『大沼郷土誌』によると、大沼では「製氷田」と呼ばれる氷切り場が３か所あって、これらを合計すると、冬期間に２０００トンを製氷し、要する人夫は6000人位、一日の賃金は７０～８０銭だったこと、大沼村の人達は冬季間ほとんどをこの製氷でしめていたということが記されています。

さらに「切り採ったものは飲料用として倉庫にも入れられるが、多くは函館、森方面に輸送されるのである。それらは冷蔵用となるらしい」とあることから、氷室に入れられる氷は飲料用だったことがわかりました。

現在、冷蔵庫の普及により自宅で簡単に製氷できるようになりましたが、一昔前は、こういった氷切りを行い、保蔵することで夏季の風物詩でもあるかき氷を楽しんでいたのでしょうか？　実際に見たことのない光景に、遠い昔を思い出すかのような感覚に陥ってしまう氷室の紹介でした。

日進月報 <2014. 2>

2日

ふぁみりーでぃみゅーあむで「恵方巻きつくり」に挑戦しました。当館友の会の指導をうけながら、親子で卵焼きを焼いたり、きゅうりを切ったりしながら、7種類の具材をそろえ「まきます」を使って、まきました。

作ったあとは、今年の恵方でも東北東をむいて、試食です！　子どもたちには、ちょっと大きな恵方巻きだったかもしれませんが、残さず食べている子どもたちもいましたよ！

また参加して下さいね！

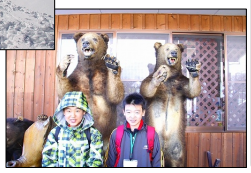
5日

夜の博物館ナナエガク3を開催しました。今回は、企画展示室を会場にし、スライドを見ながら、明治期に七飯町を旅行した英国人女性旅行家イザベラ・バードがどのようなルートで、当時ななえを歩き、紀行文に記しているのか、古写真などを用いながら解説しました。最後には、昨年12月に新たに建立されたバードの足跡を辿る案内看板を紹介しました。

22日

ジュニア探検クラブで、ワカサギ釣りに挑戦しました。時折、暖かな陽が差す中、小さな釣り人たちが、ガヤガヤと氷の上を歩きまわっていましたが、徐々に魚がかかってくると、寒さもそっちのけで、竿を引き上げる姿がとても印象的でした。釣ったワカサギは、から揚げにして食べ、午後からは、フィールド散策。

野鳥たちや動物の足跡を観察したりと、雪の上を歩き回った一日でした。皆さんお疲れ様です。



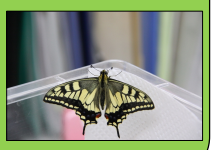
4月の予定

1	火	
2	水	
3	木	
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	パネル展OPEN予定
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	ジュニア探検クラブ
27	日	
28	月	
29	火	昭和の日
30	水	

※4月の休館日はありません。

一足早い春

夏に採取して、放置していたキアゲハの蛹が、いつの間にか羽化していました。突然でしたが、とても綺麗な姿を楽しませてもらいました。



編集後記　～tawagoto～

年度末です。イコール多忙です。

おそらく当館だけではないでしょうが、例外なくバタバタしています。そんな中でも、しばしの休息が必要かと思い、昼休みに館のまわりを少し歩いてみました。すると、ハエやクモが遅いうごきながらも活動をはじめ、ヤナギの芽も、いつのまにか光沢を帯びた灰色に輝いていました。それは、聴こえない足音をたて、春がやってきていることを実感する、ささやかな安息の時でした。（やまだひさし）

Pichari ～ピチャリ～

第75号

平成26年3月20日　発行

七飯町歴史館

〒041-1193　亀田郡七飯町本町6丁目1－3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp